

# はじめに

奈良大学 教職課程担当 中 戸 義 雄

奈良大学は1969年に開学し、翌年の1970年には教職課程（教育職員免許状取得課程）が設置されました。はじめての教員免許状取得者が誕生してから数えても40年近く経ち、初期の卒業生の方々はすでに退職の時期を迎えられています。

この間、本学教職課程からは公私立の学校教員、あるいは専門学校や塾などの教育関係職に多くの人材を送り出してきました。それぞれの分野において、多彩な教育実践がおこなわれていることは、国文学科卒業生が中心となって組織・運営している「奈良大学国語教育研究会」や2008年度より本学主催でスタートした「奈良大学教育職員懇話会」などからも窺い知ることができます。しかし、そういった個々の取り組みがこれまで教職課程の運営に十分に活かされてきたとはいいい難く、また同時に教職課程の現状について情報発信されることも多くはありませんでした。

さて、本学は昨年11月に文部科学省による教職課程認定大学実地視察を受けました。この視察の際には、社会科（中学社会科、高校地理・歴史科）および国語科という競争率の高い科目であるにもかかわらず、現役合格を含む一定数の採用試験合格者を出している点は評価を受けました。一方で、教職課程への全学的支援体制や学外への情報公開などについては今後検討の余地があるとの指摘も受けました。本報告の発行は、後者への一つの回答と位置づけられるものです。しかしながら、その最大の目的は、教職課程の学生、卒業生、教職員など本学教職課程にかかわる人たちの相互交流の場となることであり、そのことによって本学教職課程がたとえ微力であっても日本の教育現実に寄与していくことと考えています。

奈良大学教職課程がより一層充実した教育・研究を進めていくために、今後とも関係各位からのご指導、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。